

教育目標
ひらこう世界へ
のびようともに
つくろう夢を
こえよう自分を

紙面から

- スクールガードボランティア・コラム …… 1
- 一日校長・日野宿・市民体育大会 …… 2
- シェフコンテスト・翼聖歌と新実南吉 …… 2

地域へのおもてなし活動

「スクーターボランティア」活動状況の紹介

子ども達が安全に通学できるよう、日々見守り活動を行っている「スクーターボランティア」の方々の中から、今回は、2つのグループの皆様にお話を伺いました。

信号のない交差点での見守り活動の事例 (日野第八小学校学区内)

活動を始めたいきっかけを教えてください

日野第八小学校の東にある百草橋は新井方面と百草園駅方面を繋ぐ抜け道の途上であり、子ども達の登校時間帯には多くの車がかなりのスピードで通行しています。また、道幅が狭く橋に向かって緩い上り坂となっているため、橋付近を横断している児童がいても、車からは視認しにくい状態です。こうした危険性を以前から気に掛けており、「自分の子どもも誰かのお世話になっていた。その恩返しのためにも活動しよう」と自治会のメンバーを中心にグループを結成し、約1年前から活動を開始しました。

どのような活動をされていますか

子ども達の登校時間帯に合わせて、橋の両端に1人ずつ、橋から新井方面にやや坂を下ったところにあるT字路に1人の計3名が毎日欠かさず立ち、子ども達が安全に通行できるように活動しています。スピードの出ている車には止まってもらい、安全に通行してもらおうと呼びかけたりもしていました。

活動をしていて大変な事や嬉しいことはありますか

嬉しいことは子どもたちとの関わりです。元気に挨拶を返してくれる子がいると、心の支えになります。中には、高校へ進学した後も通りすがりに挨拶をしてくれる子や、「いつもありがとうございます」とお菓子をプレゼントしてくれた子もいました。

一方、少ないメンバー(7人)で活動しているので、体力的な負担が大きいことが悩みです。誰かが無理を承知でやらなければならぬという思いで活動を続けていますが、今後のことを考えて活動を手伝っていただける方を見つけないかと思っています。



橋の向こう(坂の下)から来る車はほとんど見えない



坂の下からも橋の状況は見通しにくい

通学路のパトロールによる見守り活動の事例 (東光寺小学校学区内)

活動の内容を教えてください

地域の老人クラブの有志でボランティア活動部を結成しており、その活動のひとつとして通学路のパトロールを行っています。

現在は週に2回、子ども達の下校時間にあわせて新町、栄町の通学路を1時間〜1時間半ほどかけてパトロールしています。参加人数はその日によって異なりますが概ね4〜5人で、ところどころで別々のルートに分かれてなるべく多くの箇所を見回れるようにしています。

活動を行う上で工夫をされていることはありますか

東光寺小地区では他にもパトロールを行っている団体があるので、数ヶ月に一度、学校に集まって連絡会を行い、意見交換をしたりパトロールを行う曜日を割り振ったりしています。この連絡会には学校長や警察、PTAの代表にも参加していただいております。活動をしていくための情報交換の場となっています。

今後の課題等があれば教えてください

パトロールの順路など活動の内容がどうしても一定のものになってしまうところが課題です。通学路上の危険箇所など、より多くの情報を提供していただければもっと多様な活動ができるのではないかと思います。

もう一つはメンバーの平均年齢が高めなので、今後も活動を継続していくために、もう少し若い年代の方にも参加していただければと考えています。



学校周辺をパトロール中の様子



パトロール中、用水等の清掃も実施



教育委員会では子ども達の安全・安心のために活動していただける「スクーターボランティア」を随時募集しています。

※登録方法等、詳細につきましてはホームページをご覧ください。教育委員会庶務課までお問い合わせください。

(庶務課)

コラム

「翼をひろげよう」



日野市立小中学校PTA協議会
副会長 黒川洋美さん

「この大空に翼をひろげ飛んで行きたいよ」この歌を聴くと中学生だった頃の想いが蘇ってきます。

中学校の教室の窓から果てしなく広がる青空を見上げ、音楽の授業で歌っていたこの曲を心の中で口ずさんでいました。友だちとのトラブルに悩み、学校という世界から逃げ出したかったのです。大空を自由に飛ぶ小鳥のように。でも逃げ出す勇氣はなく、鳥籠の中の小鳥のような気持ちでいました。

しかしそのような時一緒に居てくれた友だち、相談にのってくれた先生の存在のお蔭で、私は困難から逃げ出すための翼ではなく、立ち向かって行く勇氣の翼を手に入れることができました。この時克服できたという自信がその後、高校、大学、そして社会という大空を飛び回る現在においても困難を乗り越える力の源となっているように思っています。

